

特 殊 報

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について（送付）

このことについて、平成14年度病虫害発生予察特殊報第3号を発表したので送付します。

平成14年度病虫害発生予察特殊報第3号

- 1 対象作物 ナシ、カキ
- 2 病虫害名 カキノヒメヨコバイ (*Empoasca nipponica* Dworakowska)
- 3 発生地域 県中央部および県南部
- 4 特殊報の内容
 - (1) 初発生確認の経緯
 - ア) 平成14年6月に県中部地域の隣接するナシ園（品種：豊水）及びカキ園（品種：富有）において、新葉の周縁が褐変して枯死や落葉する被害が発生した（写真、写真）。
 - イ) 被害が認められたほ場で調査した結果、ナシやカキの徒長枝に多数のヨコバイ類の成幼虫の寄生が確認された。採集した成虫の同定を埼玉大学の林正美教授に依頼したところ、カキノヒメヨコバイ (*Empoasca nipponica* Dworakowska) であることが判明した（写真）。
 - ウ) 健全なナシの新葉に本種成幼虫を接種したところ、現地と同様の被害が再現された（写真）。
 - エ) 同時期に県南部の普及センターから庭先のカキにおいて、同様の被害が発生しているとの情報があった。
 - オ) 本種によるカキの被害は平成7年に岐阜県で初めて確認され、その後、平成10年に愛知県と静岡県、平成11年に愛媛県で発生が確認された。さらに、岐阜県と愛知県では同時にナシでも発生が確認されている。
 - (2) 被害状況
いずれも主に新梢と新葉に寄生が集中しており、果実では寄生を確認していない。主な被害症状は、新葉の周縁壊死と新葉の巻き上がりである。

(3) 形態・生態等

- ア) 成虫の体長2.8～3.2mm、体色は羽化直後は白くて次第に淡青緑色となる。チャノミドリヒメヨコバイ類と類似しており、肉眼で区別はできない。
- イ) 岐阜県の調査によると、ツバキ、サザンカ、サツキ、ツツジ等の常緑樹の葉裏で成虫越冬し、4月以降カキに移動して世代を繰り返す(年間発生回数は4～6回)、11月頃に越冬場所へ移動する。
- ウ) 他県では、カキ、ナシ以外にリンゴ、インゲン、ササゲ、ケヤキ、フジ、ダリヤ、ヤツデ、アジサイ、ヒマワリ等で被害が確認されている。
- エ) イチゴでも同様のヒメヨコバイ類の寄生を確認しており、現在調査中である。

5 防除上注意すべき事項

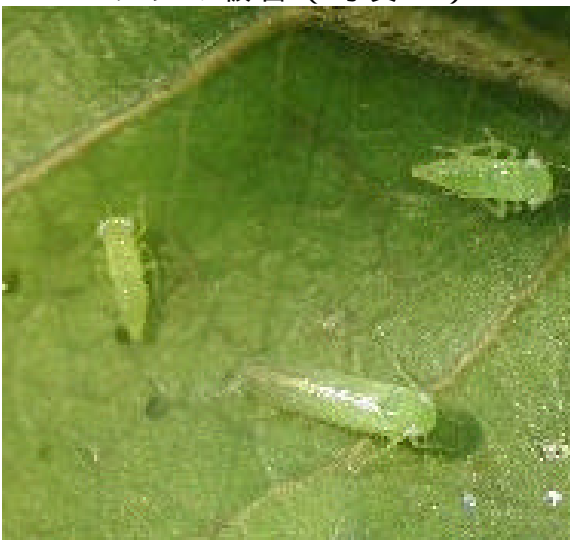
- (1) 4～6月の発生初期の防除が重要である。現在のところ、本種に対する登録薬剤はないが、対象作物に登録のある薬剤で他害虫との同時防除を実施する。
岐阜県のデータによると、アプロード水和剤、テルスター水和剤、モスピラン水溶剤、スプラサイド水和剤、アーデント水和剤、サンマイル水和剤などが有効との報告がある。
- (2) 今のところ、本県での被害の発生地域は一部に限られているが、今後被害の拡大が懸念される。



ナシの被害(写真)



カキの被害(写真)



カキノヒメヨコバイの成幼虫(写真)



カキノヒメヨコバイをナシに接種して再現された被害(写真)